

## 第三者評価結果報告書

総括	
対象事業所名	小学館アカデミーまいた保育園（4回目受審）
経営主体(法人等)	株式会社 小学館集英社プロダクション
対象サービス	保育所
事業所住所	〒232-0016 横浜市南区宮元町 1-15-1 エクセルマンション宮元町
設立年月日	平成23年4月1日
評価実施期間	平成28年1月～28年3月
公表年月	平成29年6月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版
<b>総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）</b>	
<p><b>【立地面での特色】</b></p> <p>●概要 運営主体である、株式会社小学館集英社プロダクションは、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に保育施設を45ヶ所展開し、内、神奈川県（横浜市・川崎市）は、18ヶ所の保育園を運営しています。小学館アカデミー保育園は、保育理念である『あったかい心』をもつ子どもに育てる』を全園で共有し、7つの基本方針をベースに、「楽習保育®」を中心した、保育環境（ラーニングセンター、みどりのあそび場、小学館ライブラリー）と、保育活動（遊び、生活）の両立を目指し、「あそび・せいかつ」から「まなび」へ導き、理念の実現に向けて保育を展開しています。保育理念に基づいた保育の内容の詳細は小学館アカデミー保育園のパンフレットに写真・イラスト等で分かりやすく記載され（ホームページからも閲覧可能）、各項目とも詳細、精緻に組み立てられており、法人のポリシーが各項目に溢れています。これらの取り組みは、職員教育で意思統合を図り、保育プログラムと環境を大切にした小学館アカデミー保育園を展開しています。</p> <p>●小学館アカデミーまいた保育園をとりまく環境 園が所在する横浜市南区は、人口密度、外国人人口率は神奈川県内でも比較的高く、待機児童に関しては、2.72%で神奈川の平均値（2.18%）の地域です。蒔田エリアは、地下鉄を利用して横浜へのアクセスや、京浜急行「井土ヶ谷」駅も利用でき、アクセス性に優れた場所であり、商店も立ち並び利便性も良く、活気のある地域です。園舎は、マンションが立ち並び住宅地域に位置し、鎌倉街道沿いのマンションの1階部分に位置しています。園舎周りは木の格子で囲まれ、園庭では、夏にはプールを設置して子どもたちは楽しく遊びます。また、園舎すぐ裏手には整備された広い蒔田公園もあり、散歩では川など自然に触れる機会も多く、子どもたちはのびのびと園生活を過ごしています。園内は、保育室が4室設けられ、効率的に活用し、日常的に異年齢保育の環境にあり、0歳児、1歳児、2歳～3歳児、4～5歳児の4クラスで運営され、定員50名のところ、現在は53名を受け入れています。</p> <p><b>【特に良いと思う点】</b></p> <p><b>1.まだまだ進化を続ける楽習保育®</b> 前年度の優れた点では、楽習保育®のレシピと発表会が挙げられました。さらに、楽習保育®の進め方を工夫して、各保育園で保育のプログラムとして実施した実例を発表会で選定し、2年分のレシピ集が作成されていました。このレシピ集は、楽習保育®の幅・高さを大きく広げ、内包するプログラムが多岐に渡り、進化しています。今年度は、全小学館アカデミー保育園で楽習保育®の系列化に取り組んでいます。それは大きく楽習保育®を3つの大きなプログラム（①コミュニケーションプログラム、②リズム・運動プログラム、③ネイチャープログラム）に分け、小学館アカデミー保育園</p>	

の保育の大綱を固めていく意向です。その中身は、コミュニケーションプログラムの中に、「ことば」の豊かさを身につけること、「本育」なども含まれており、3つの大分類に次ぐ中分類個々のカリキュラムの充実が図られていることが見えます。特に、出版大手の法人として推し進める「本育」が今後さらに進化されていくのか、大きく期待されます。

## 2. 職員の資質向上に向けた「30秒の誓い」と3H活動の推進

全小学館アカデミー保育園では、今年度の方針として、「子どもと自分を守る30秒の誓い」と、「3H活動の推進」を進めています。この2つの活動は、子どもに止まらず、一人一人の職員にも向けた活動であることが特徴です。「子どもと自分を守る30秒の誓い」では、①人数のチェック（活動の区切り、区切りで員数の確認）、②環境と変化のチェック（子ども、保育士、スケジュールの変化確認）、③危機発生時には、「冷静」、「落ち着き」、「自分の5感」の3つにより子どもを守り、また、子どもを守ると共に、職員自身の保育活動を守ります。「3H活動の推進」では、3Hとは、「褒める」、「広げる」、「励ます」のスリーワードであり、保育の場面で子どもに対して「3H」を進めると同時に、職員同士でもスリーワードを上司、先輩・後輩、同僚の間で展開していきます。これにより、保育の質の向上が図られ、活動を進めることにより職員全体のボトムアップが期待され、今年度の目標として推進し、小学館アカデミー保育園全園で展開しています。

## 3. 「子どもが主役」の日常保育の推進

小学館アカデミーまいた保育園では、「子どもが主役の保育」、保育士に指示を受けるのではなく「子どもが自分で考える保育」、「子ども自身で考え、自主的に実行できる」等、子どもの自主性を育む保育を推進しています。園では、「子ども中心、子どもが主人公」であり、職員を“名脇役”と考え、子どもがやりたいこと、やってみたいことをできるだけ実現できるよう、職員は何事も「受け止める」ことに徹し、保育を進めています。食事の取り組みでは、子どもたちが個々に食事の時間を自分で考え、選択し、自己配膳をして、子ども一人一人の生活ペースに合わせた「ランチルーム」を採用しています。食事テーブルは、10人で使用し、子ども自身が決めた食事時間に合わせて遊び内容を選択し、個々に時間を創造する生活が定着しています。子どもたちは、「待つ」・「譲る」・「選択する」ことが取り組みを通じて身に付いています。職員は、日常保育の中で、「子どもが主人公」を演出できるように取り組んでいます。

### 【さらなる期待がされる点】

#### 1. 「本育」への期待

小学館アカデミー保育園が推進する楽習保育®の中に「本育」があります。「本育」の内容は、1日1回の読み聞かせタイムと、小学館ライブラリーの活用が現状であり、一般の保育園も実施している内容と同じでもあり、法人の事業体として教育を一つの柱とされていることを踏まえ、「本育」が取り込まれることに「教育」との関連性や、本育での意味合いの裏付けなる何か・展開、があると、大きな期待が膨らむことは否めません。世間での本離れが喧伝される中で、子どもたちに「本」に興味と“わくわく感”を持たせることは活字、マスメディアを本業とされる法人の使命とも思われます。アイデア・工夫、若しくは多くのラインアップがされるのではと昨年も期待しましたが、現在のところ目覚ましいものは見えていません。楽習保育®のレシピのような画期的なアイデアと同様、是非、「わくわくをつくろう」に則り、「本育」の展開を期待しています。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1. 人権の尊重

●保育理念・基本方針は、小学館アカデミー保育園全園共通で展開し、『「あったかい心」をもつ子どもに育てる』であり、7つの基本方針『「思いやり」・「生きる力」・「好奇心」・「経験、体験」・「得意」・「ことば」の美しさ、楽しさ・「地域との関わり」』を大切にして、保育サービスを提供しています。小学館アカデミーたまプラーザ保育園では絵本を大切にし、「本」を通して親子の関係の育成を考え、保育を進めています。また、「愛されて育った子どもは他者を愛することができる」ことを根幹に、子どもがいろいろな体験ができるよう、保育内容を充実させています。職員に対しては、毎月の職員会議で保育理念・基本方針を確認し、保育との連動について話し合い、共通認識を図り、理解を深めています。

	<p>●性差に関する配慮では、出席簿は月齢順にし、遊び方や行事での役割、持ち物や服装での区別や、グループ分けや整列も性別で分けをすることはしていません。職員は、ジェンダーフリーに関する勉強を行い、職員相互で話し合い、理解を深めています。</p>
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<p>●園の保育課程は、法人が策定した保育課程に沿い、園の基本方針、地域の実態、周囲の環境等を加味して作成しています。また、小学館アカデミーたまプラーザ保育園の保育課程の特徴は、長時間過ごす園生活において、安心、安全を確保し、子ども一人ひとりが守られ、子どもが楽しく過ごせるように考えて策定しています。保護者へは、保護者会（4月）時に、保育課程を基に、園の年間指導計画、各クラス別の年間指導計画の保育内容を、分かりやすく表現にした資料を添えて説明しています。</p> <p>●新入園児の受け入れの際は、短縮保育（ならし保育）を行い、子どもの個性や、保育歴・保護者の復職期、状況に応じて相談し、無理のないよう期間を決めています。0歳、1歳児の新入園児では、グループで職員が担当していますが、子どもが特定の保育士に懐いた場合は同じ保育士が関わるようにしています。保護者への連絡では、0歳～2歳児は連絡ノート（複写式）を使用し、3歳児以上は市販のノートを活用して必要に応じて記入し、登降園時にも口頭で伝えるよう保護者との連携を密にしています。在園児への配慮では、進級児の持ち上がりの保育士が担当するよう努め、進級前に保育士が次のクラスに慣れる機会を設けています。</p> <p>●0歳～2歳児については、毎月、子ども一人一人の個別指導計画を作成し、配慮を要する子ども、障害児も個別指導計画を作成しています。気になる子どもについては、必要に応じて個別に指導計画を立案し、関係機関の指導を仰ぐ等、適切に対応するよう努めています。個別指導計画の見直しについては、状況に応じて柔軟に行い、特に、週案、月案で見直しを図り、保育にあたっています。個別指導計画見直しの重要部分（個別の離乳食の進め方、トイレトレーニング等）については、保護者と連携をとり、重要事項の説明と同意を得て計画の作成・見直しを図っています。保護者へは、定期的に園児の様子や、関係機関等での助言内容を伝える機会を設けています。</p> <p>●園外活動では、近隣の「美しが丘公園」に散歩に出かけ、広い敷地の公園では大型遊具やアスレチック、ロッジなどを利用して子どもたちはのびのびと遊んでいます。また、四季折々の自然に触れ、五感を育む機会となっています。地域の方とは散歩の途中等で挨拶を交わし、交流しています。園では、小学校の「スクールゾーン運営委員会」に参加し、地域とのつながりも深まっています。</p> <p>●保護者とは常にコミュニケーションを図り、運営委員のクラス代表の保護者とは状況に応じて話し合いを行っています。現在、保護者から場所の提供や職員参加の要望はありませんが、対応できる体制は整えています。卒園式後の保護者主催の謝恩会には参加し、交流を持っています。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>●障害児保育のための環境整備では、園舎はバリアフリー構造であり、障害者用トイレを設置し、出入口の手すり、エレベーターを設備しています。小学館アカデミー保育園全園共通で、障害児の受け入れ体制・書式を整えており、いつでも受け入れ可能な体制を整えています。関係機関との連携では、地域療育センターあおば、青葉区役所の保健師、ケースワーカーと必要に応じて相談・指導を受けられる体制を構築しています。</p> <p>●虐待の定義については、入社前研修および、外部研修への参加や、園内での勉強会で全職員に周知しています。虐待予防・早期発見については、職員は、朝の受け入れ時に視診及び健康観察を丁寧に行い、職員間で迅速に連携を図り、</p>

	<p>家庭の背景等を考慮して子どもや保護者について配慮し、支援やアドバイスを行っています。関係機関との連携体制は構築できています。</p> <p>●アレルギー疾患のある子どもには、横浜市のアレルギーマニュアルに沿い、医師の指示（診断書）に従って除去食を提供しています。職員全員はアレルギー疾患に関する知識を深め、給食時では、専用トレイ、専用食器、名札等を使用し、調理室と保育室で連携を図り、受け取り時には保育士がダブルチェックの確認を行い、誤食がないよう徹底しています。</p> <p>●文化が異なる対応については、必要に応じて、図や写真等を活用して、互いの意思の疎通を図るように努め、資料や文書にはルビを付けるなど配慮しています。子どもたちには、世界の地図や、万国旗などで文化の違いについて伝えていきます。</p> <p>●保護者からの苦情に関しては、入園のしおりに苦情受付窓口・受付方法を記載し、入園説明会等で保護者に説明しています。第三者委員の仕組みは玄関に掲示して周知し、権利擁護機関についての苦情解決窓口も紹介しています。保護者から要望や苦情が言いやすいよう、玄関に意見箱を設置し、行事後には保護者アンケートを行い、運営委員会でも意見や要望を聞いています。</p> <p>●事故やケガについては、救急機関、地域への連絡体制を整え、病院等の緊急連絡先リスト等も完備しています。ケガ報告・事故報告・ヒヤリハットを作成し、毎月、ケガの状況を集計して職員会議で周知し、再発防止策を立て、常に注意・検討を重ねて再発防止に努めています。ケガについては、保護者へ軽重に関わらず必ずその日の内にクラス担任から保護者に伝えていきます。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<p>●地域の子育てニーズは、青葉区の幼保小連絡会、園長会議で得た情報やニーズに関して職員会議で検討し、役立てています。地域の子育て支援サービスでは、園庭開放を実施し、子育て相談を開始しています。地域に向けた子育てに関する講習、研修会は、公立認可園と協働して地域ケアプラザの「保育の広場」で提供し、保育士、看護師を講師として派遣しています。</p> <p>●地域への園の理解促進のための取り組みとして、行事（夏祭り、運動会、発表会）に自治会役員、地域民生委員、近隣の方々、他施設の園児等を招待し、園の取り組みや子どもの様子を見てもらう機会を設けています。また、自治会から地域の「桜まつり」に招いてもらい、七夕の竹を毎年いただく等、良好な交流が図られています。近隣の小学校とは体育館の借用や、年長児が交流を持ち、高校生の福祉体験を受け入れ、青葉区の幼保小連絡会、タウンミーティングに参加する等、地域との交流を図っています。さらに、園児と共に地域のごみ拾いを行っています。</p> <p>●ボランティアの受け入れでは、小学生の生活体験、中学生の体験学習、高校生の福祉体験、一般大学生・通信制学生の夏休みボランティアなどを受け入れています。ボランティア受け入れのためのマニュアルがあり、担当は園長とし、マニュアルに基づいてボランティアを受け入れ、事前に保護者や職員に趣旨および日程を知らせ、理解を促しています。</p>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>●守るべき法・規範・倫理等は、入社前研修資料に沿って研修を行い、徹底に努めています。職員は、保育士倫理綱領や就業規則を順守し、実践に即した規定としての職員マニュアルを常備し、確認できる体制にしています。経営、運営状況等の情報は、小学館アカデミー保育園グループとしてホームページで公開しています。コンプライアンスに関して、法人本部より運営事務局会議の安全委員会で討議された事例が配信され、園内研修で取り上げ、職員は守るべき規範について再確認しています。</p> <p>●環境整備では、施設運営業務マニュアルの中に環境方針が明文化され、ヨコハマ3R夢（スリム）方針を意識し、ゴミの減量化と分別に取り組んでいます。</p>

	<p>リサイクルでは、子どもの小さくなった衣類を保護者に協力を仰ぎ、園で着替えを忘れた子ども用に活用したり、牛乳パック、廃品を利用して玩具作りをする等、エコ化に取り組んでいます。省エネ対策としては、節電や、エアコンの設定温度を心がけ、実践しています。</p> <p>●中・長期計画は、法人本部の運営事務局会議でのアジェンダが作成され、それらを基に、園長は中・長期計画（基本的に体質改善計画を中心とし）を立案し、事業計画を策定しています。中・長期計画で重要な情報は、必要に応じて会議やミーティング等で職員に報告し、重点改善課題として設定しています。</p>
<p><b>6.職員の資質向上の促進</b></p>	<p>●小学館アカデミー保育園に勤める職員としての行動目標を明文化し、専門性・社会人性・人間性を総合的に判断し、一般職員から主任、園長への人事管理へとつながる考え方を定めています。法人で研修計画が策定され、入社時研修、フォローアップ研修、ステップアップ研修等を設け、テーマ別や、職種・役職別に実施し、該当者は参加しています。また、人事考課制度があり、個人別目標の設定、個人別能力向上シートの作成を行い、目標と研修計画に沿って面接を実施し、人事の異動も含め人事政策を展開しています。</p> <p>●サービスの評価では、職員会議で年間目標を提示し、保育士は定期的に自己評価を行い、取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て、次年度につなげる仕組みを整えています。また、運営委員会において、保護者、自治会長、嘱託医と情報交換を行い、楽習保育®のレシピ作り等、さらなる保育サービスの向上につなげています。保育士は、子どもの発達に応じて現場の動線作りを見直し、保育レポートで振り返り、日々の保育につなげています。また、透明性ある保育を心がけ、気づきを得られるよう日々保育にあたっています。外部から保育の技術の評価・指導等は、法人本部の指導の他、法人系列園との交流や、「英語で遊ぼう」の講師等から受けています。</p> <p>●法人にて職種別に期待される職員像を明文化しています。人事考課制度による面接の際は、個々の異動の希望、クラス担当の希望も含めて各保育士の意向を聞いています。園では、月当番、各プロジェクト、役割分担表を明文化し、行事は保育士の提案により運営・実施しています。園と法人本部の連携を図る施設担当者を設置し、園長と協力しながら運営を推進しています。</p>